

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みかたっこ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～	令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～	令和8年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習障害への個別療育を大切にしている。宿題をみるなどの学習支援ではなく、学習障害児の持つ認知の特性（左脳よりも右脳が優位、視覚入力が強み等）に配慮した学びのリハビリを得意にしている。文字と音のデコーディングは、みかた-NETのオリジナルの教材（Mihee等）を療育に活用し、特に、ローマ字習得や英単語の読み（フォニックス）では、効果を発揮している。 書くことが苦手な特性に配慮して、書く場面はできるだけ減らし、カード教材やパソコンを使って学ぶようにしている。 また、不登校になり学びから遠ざかっている子供さんも、学習障害の子どもさん向けのアプローチで、学びへの興味をとりもどしつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人に合う学びができるよう、教材を追加更新している。 みかたっこの近くのみかたっこが使用できる広場や川、公園、体育館などがあり、外遊びや、散歩、運動などの療育に活用している。 添加物の少ないおやつや提供や保護者のかたへの食に関する情報提供なども行っている。 子どもの特性を活かして遊べる様々な種類のアナログゲームを準備している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で療育の進め方を共有する手段（教材のステップ順の一覧表など）を作る。 活動内容が固定化されないように配慮しつつ、スケジュールのルーティン化などで見通し、不安などを減らす工夫も行う。 他の放課後等デイサービス等の見学や研修を行い、療育の流れや構造化についてさらに学んでいく。 言語活動や運動など、療育の内容や場面に応じて集中できる環境づくりを進めていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 学習障害の特性について保護者さんに知っていただくことやその特性を生かしてどのようなアプローチをみかたっこではしているのか理解していただくための研修の場や情報提供を実施している。 中学校卒業後の進路先を養護学校高等部と決めつけず、全日制高校、通信制高校など、その子どもさんに合う進路先を描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい祭りや親の会など保護者も参加できるイベントや研修を開催し、積極的に交流や情報提供の機会を設けている。 LDとASDの併発の場合、学習することへの抵抗が強くなっている場合がある。場合によっては、不登校になっていることもある。が、みかたっこの療育や学校ではたらきかけをきっかけに、あるとき学ぶことへの抵抗感が取れ、もっと学びたいと思うようになる子どもさんもある。そういう状態になれた子どもさんの保護者さんに親の会で話して貰い、小学生年代の保護者にも将来への見通しを持ってもらえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの集団療育・お楽しみ（おでかけ）も並行して行いながら、親の会（茶話会、顔合わせ会）を定期的に行う。 保護者の方が利用計画を立てやすいように、年間や月ごとの行事予定等を早めに計画・周知するよう努める。
3	<ul style="list-style-type: none"> ADHDやASDなどの行動特性には、腸内環境を整えることも効果があるとの腸脳相関の考え方を大切に、腸活によりおやつや手作りのミネラル発酵ドリンク、みそスープ等を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> お楽しみ活動として、クッキング活動もできるだけ行っている。 購入するおやつを提供する場合も、添加物等には配慮している。 	

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級に在籍しているLDの子供さんへの療育をもっと行いたい、そういう子どもさんにアプローチすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 雲南市の場合、行政がLDのための無料の塾を運営していることや民間事業者のちらしを学校で配布して貰えないため SNS発信等の弱さ 	<ul style="list-style-type: none"> ニーズのある子供さんやその保護者さんに、みかたっこの存在を知って貰えるよう、他事業所主催の活動に参加する。 学習障害の子どもさんにとって有効な教材を知ってもらえるよう、情報発信をする。
2	<ul style="list-style-type: none"> みかたっこは、発達障害の中でも学習障害への療育を大切にしたいが、子どもは、苦手なことに取り組むことを避けたがる。 欠席が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> なんのためにみかたっこに行くのか、子ども自身がきちんと理解していないことが原因。学年が下の子どもさんほどその傾向が強い。 学習とは宿題をこなす（漢字や計算のプリント等）ことという固定化した認識が強く、力がついていく楽しさを子ども自身が味わう体験の乏しさ。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手なことにもやる気ができるように、脳科学的に有効なアプローチを取り入れる。 これができたらステージが1つ上がるなど見通しを持つてだて、ドーパミンが出るよう、活動プログラムの工夫 等 苦手な分野に取り組む一方、楽しい活動や子どもが主体的に参画できる活動など、子どもがみかたっこへの通所を楽しみになるような活動をもっと充実させることができるとよい。 下校後、癒される感覚を味わえるようにする。 ハンモック等の感覚刺激を味わえるよう保障する 学校での悩みなどをスタッフに気軽に話せるような信頼関係を築く
3	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい祭りなどのイベントでは、地域の子どもたちに参加してもらい交流を図りたかったが、なかなか地域の子どもたちに参加してもらうことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子供たちにイベント開催の情報を提供することができなかった。情報を届けることができたとしても、それぞれの子どもさんがスポーツ活動などに取り組んでいて、参加してもらうことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人たちとのふれあいのために、大東高校の生徒さん、他の活動団体（CNCさん、児童クラブさんを運営する法人、ワーカースクープ等）との連携を図る。 地元の自治会の子どもたちから視野を広げ、他地域の子どもたちとの交流を図る。 年間計画を早めに立て、早めに情報発信をする。